

# 令和3年度学力調査結果について

(全国学力・学習状況調査)

令和3年10月

益田市教育委員会

# 益田市全体の結果概要

## I 全国学力・学習状況調査について

### 1 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査実施日

令和3年5月27日（木）

### 3 調査の内容

#### (1) 主な変更点

##### ①小学校

- ・学習指導要領および領域と観念の記述が変更
- ・新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問が追加（質問紙）

##### ②中学校

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問が追加（質問紙）

#### (2) 教科に関する調査

国語、算数・数学は、それぞれ次の①と②を一体的に出題 ①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
--

#### (3) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 4 実施学校数・学年・教科等・人数

実施学年 学校数	教科に関する調査		意識調査
	国語	算数・数学	
小学6年生 15校	383人	383人	384人
中学3年生 9校	397人	397人	397人

## II 用語

- 「正答率」…各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合(%)を全国又は島根県、益田市単位で平均した値
- 「領域」…各教科の学習内容を系統的に示したもの。例えば、算数では「数と計算」「図形」等
- 「無解答率」…教科の各設問において、無解答であった児童生徒の割合(%)

## III 公表について

### 1 公表の内容

教科に関する調査及び生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査について、益田市全体の結果

### 2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力や生活意識等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと。

したがって、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無解答率や誤答等も含めて、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要である。

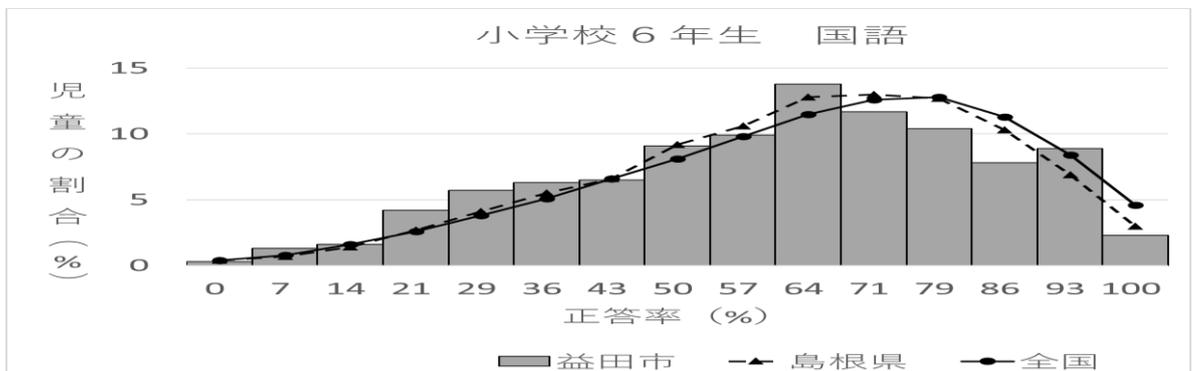
## IV 教科に関する調査の結果

### 1 結果の概要

- 各教科平均正答率について、小6の国語・算数は県平均とほぼ同水準だが、全国平均はそれぞれ3ポイント程度下回った。中3については国語・数学ともに県平均、全国平均を4ポイント以上下回った。
- 小6国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均並みであったが、他の領域は、全国平均を大きく下回った。
- 小6算数の「数と計算」「図形」は全国平均並みであったが、他の領域は全国平均を大きく下回った。
- 中3国語は、全ての領域で全国平均を下回った。
- 中3数学は、全ての領域で全国平均を下回った。

### 2 各教科の正答数分布状況と解答状況から特に課題の見られた設問

【小学校6年生 国語】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの

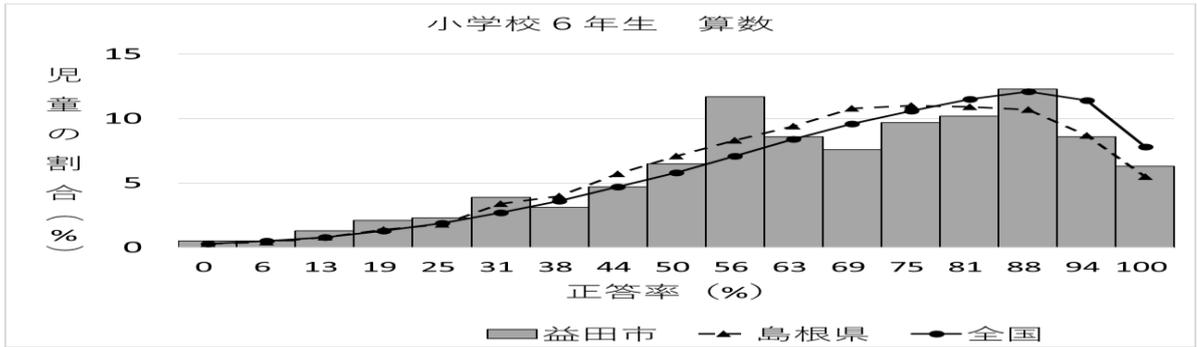


		益田市	全国	益田市-全国	県	益田市-県
教科総合		61	65	▽ -4	63	-2
内容	言葉の特徴や使い方に関する事項	69	68	▲ 1	70	-1
	話すこと・聞くこと	70	78	▽ -8	74	▽ -4
	書くこと	54	61	▽ -7	56	-2
	読むこと	41	47	▽ -6	44	▽ -3

- ・市平均正答率61%であり、全国よりも4ポイント下回っている。領域別では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」において、5ポイント以上下回っている。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均を上回っている。
- ・正答率の上位層が、全国や県と比べ割合が少ない。
- ・正答率の低位層が全国や県と比べ割合が多い。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸山さんの【文書の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する(-14ポイント)</li> <li>・津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する(-11ポイント)</li> <li>・津田梅子についての【スピーチ】の練習で〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する (-10ポイント)</li> <li>・面ファスナーに関する【資料】の文章が何について、どのよう書かれているかの説明として適切なものを選択する(-8ポイント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を文の中で正しく使う <ul style="list-style-type: none"> <li>積み重ね(14ポイント 差±0ポイント)</li> <li>転がっている(9ポイント 差±0ポイント)</li> </ul> </li> <li>・丸山さんの【文章の下書き】の……部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す (10P 差±0ポイント)</li> </ul>

【小学校6年生 算数】 ○:市が3ポイント以上上回るもの ▽:市が3ポイント以上下回るもの

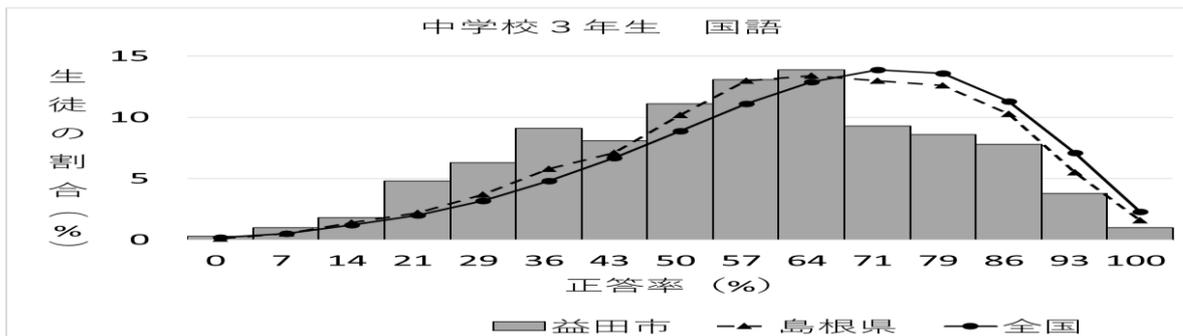


		益田市	全国	益田市-全国	県	益田市-県	
教科総合		67	70	▽	-3	67	0
領域	数と計算	61	63		-2	61	0
	図形	55	58	▽	-3	52	○
	測定	70	75	▽	-5	73	▽
	変化と関係	72	76	▽	-4	74	-2
	データの活用	71	76	▽	-5	74	▽

- ・正答率100%が県と比較して多いが、全国よりは下回っている。
- ・市平均正答率は67%であり、全国よりも3ポイント下回っている。領域別では、「測定 (-5ポイント)」「変化と関係 (-4ポイント)」「データの活用 (-5ポイント)」が特に下回っている。
- ・正答率の上位層が、全国に比べ割合が少ない。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く (-5ポイント)</li> <li>・⑦と⑧の二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ (-5ポイント)</li> <li>・直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ (-5ポイント)</li> <li>・帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く (-6ポイント)</li> <li>・5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ (-9ポイント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く (6ポイント 差 -1ポイント)</li> <li>・帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く (16ポイント 差 -6ポイント)</li> <li>・30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く (14ポイント 差 -4ポイント)</li> </ul>

【中学校3年生 国語】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▽：市が3ポイント以上下回るもの

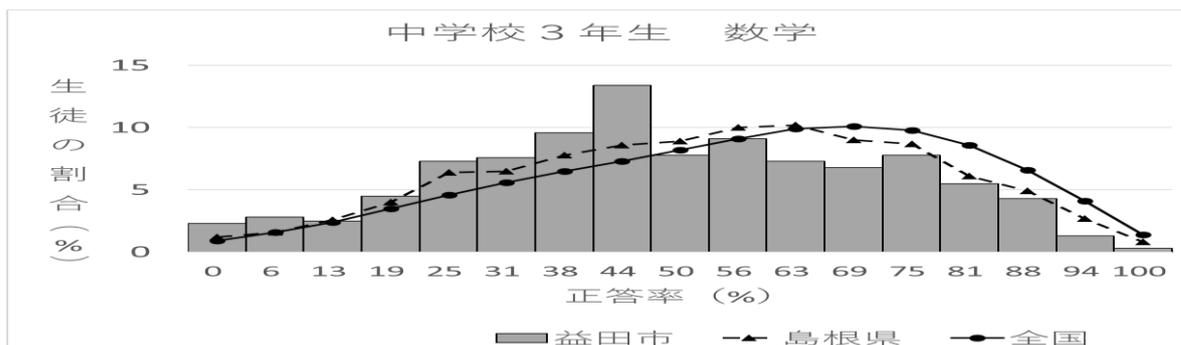


	益田市	全国	益田市-全国	県	益田市-県
教科総合	57	65	▽ -8	62	▽ -5
内容	話すこと・聞くこと	73	▽ -7	80	▽ -7
	書くこと	50	▽ -7	56	▽ -6
	読むこと	39	▽ -10	45	▽ -6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67	75	▽ -8	72

- ・市平均正答率は、57%であり、全国よりも 8 ポイント下回っている。特に、「読むこと」の領域において全国より 10 ポイント下回っている。
- ・正答率の上位層が、全国や県と比べ割合が少ない。
- ・正答率の下位層が全国や県と比べ割合が多い。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行く」を適切な敬語に書き表し、その敬語の種類として適切なものを選択する(-13 ポイント)</li> <li>・『吾輩は猫である』 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く (-13 ポイント)</li> <li>・「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する(-10 ポイント)</li> <li>・「随時」の意味として適切なものを選択する(-10 ポイント)</li> <li>・参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く (-10 ポイント)</li> <li>・意見文の下書きの構成の工夫について自分の考えを書く(-10 ポイント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『吾輩は猫である』 「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く (39 ポイント 差-14 ポイント)</li> <li>・「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す (13 ポイント 差 -6 ポイント)</li> <li>・意見文の下書きの構成の工夫について自分の考えを書く (15 ポイント 差-6 ポイント)</li> <li>・事前に確かめておきたいことについて相手に失礼がないように書く (18 ポイント 差-8 ポイント)</li> <li>・参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く (7 ポイント 差-4 ポイント)</li> </ul>

【中学校3年生 数学】 ○：市が3ポイント以上上回るもの ▼：市が3ポイント以上下回るもの



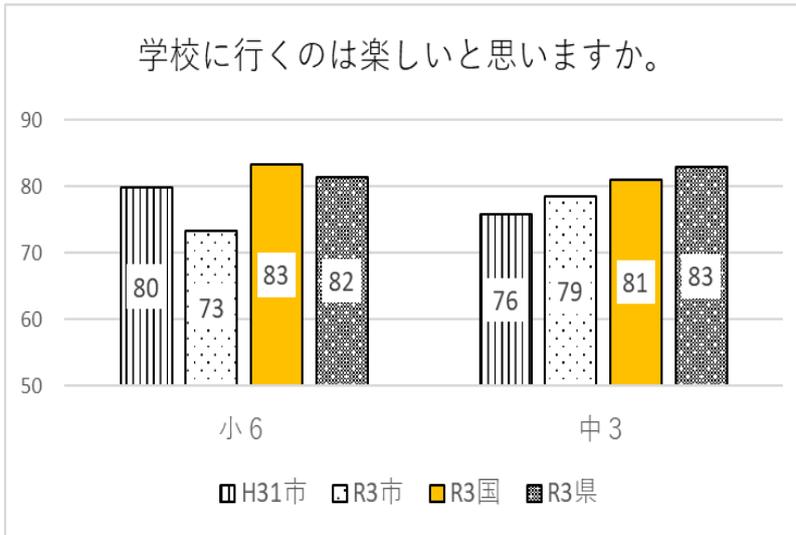
		益田市	全国	益田市-全国	県	益田市-県
教科総合		49	57	▼ -8	53	▼ -4
領域	数と式	54	65	▼ -11	60	▼ -6
	図形	40	51	▼ -11	45	▼ -5
	関数	52	56	▼ -4	54	-2
	資料の活用	49	54	▼ -5	53	▼ -4

- ・正答率の上位層が、全国と比べて割合が少なく、下位層が全国平均や県平均と比べ割合が多い。
- ・市平均正答率は49%であり、全国より8ポイント下回っている。領域別では、「数と式 (-11ポイント)」「図形 (-11ポイント)」「関数 (-4ポイント)」「資料の活用 (-5ポイント)」と、すべての領域で全国平均を下回っている。

特に課題がみられた設問と正答率全国差	無解答が多かった設問とその無解答率の全国との差
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>(5x+6y) - (3x-2y)</math>を計算する(-10ポイント)</li> <li>・数量の関係を一元一次方程式で表す(-11ポイント)</li> <li>・四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する(-16ポイント)</li> <li>・四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する(-9ポイント)</li> <li>・2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ(-9ポイント)</li> <li>・四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する(-12ポイント)</li> <li>・錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す(-16ポイント)</li> <li>・<math>\angle ARG</math>や<math>\angle ASG</math>の大きさについていつでもいえることを書く(-12ポイント)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係を一元一次方程式で表す(13ポイント 差-5ポイント)</li> <li>・四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する(29ポイント 差-13ポイント)</li> <li>・四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する(45ポイント 差-15ポイント)</li> <li>・与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する(35ポイント 差-10ポイント)</li> <li>・「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する(48ポイント 差-16ポイント)</li> <li>・錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す(24ポイント 差-10ポイント)</li> <li>・<math>\angle ARG</math>や<math>\angle ASG</math>の大きさについていつでもいえることを書く(44ポイント 差-15ポイント)</li> </ul>

V 児童生徒質問紙（生活・学習に関する意識調査）及び学校質問紙調査の結果

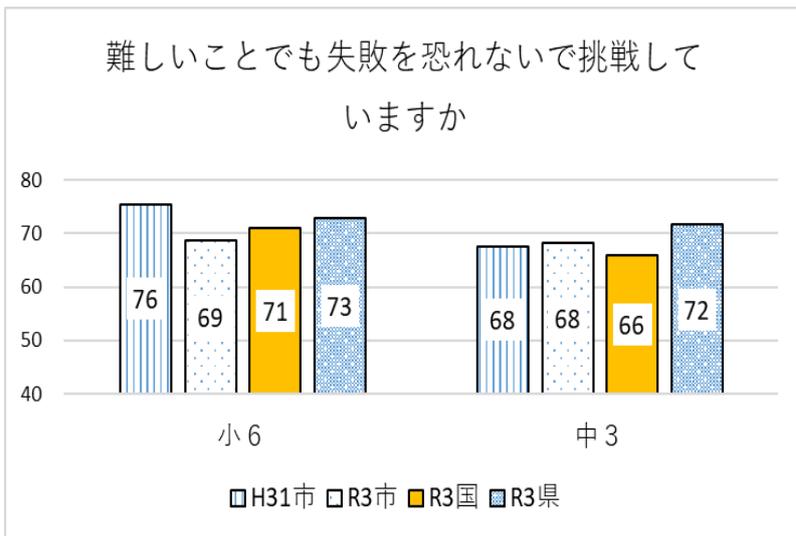
(1) 学校が楽しい



・小6については、全国平均よりも10ポイント低く、県平均よりも9ポイント低かった。H3 1年度よりも7ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも2ポイント低く、県平均よりも4ポイント低かった。H3 1年度よりも3ポイント高かった。

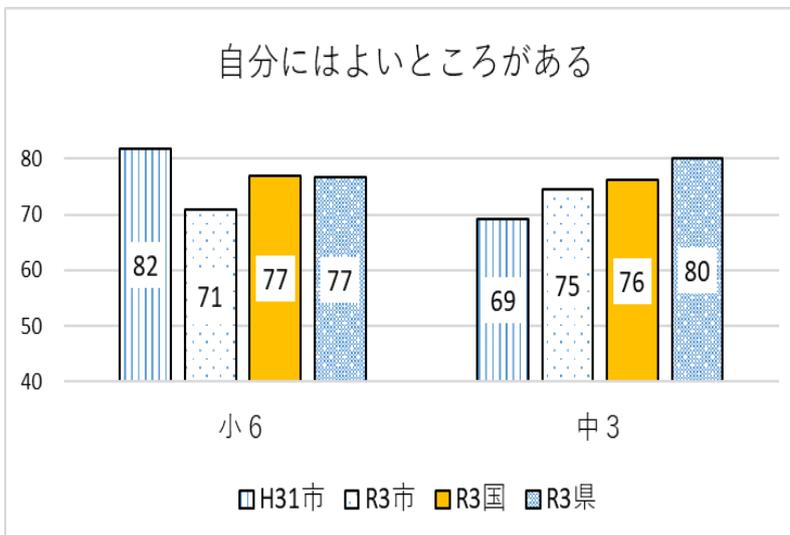
(2) 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する。



・小6については、全国平均よりも2ポイント低く、県平均よりも4ポイント低かった。H3 1年度よりも7ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも2ポイント高く、県平均よりも4ポイント低かった。H3 1年度と同じだった。

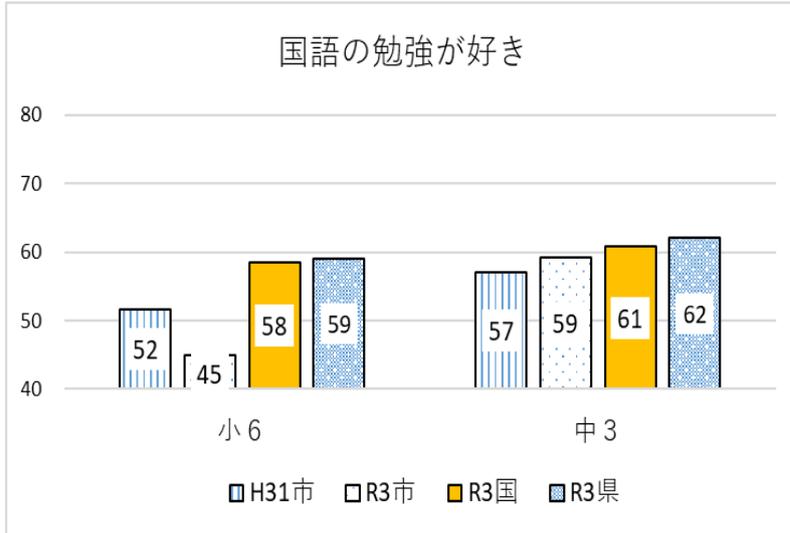
(3) 自分にはよいところがある



・小6については、全国平均及び県平均よりも6ポイント低かった。H3 1年度よりも11ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも1ポイント低く、県平均よりも5ポイント低かった。H3 1年度よりも6ポイント高かった。

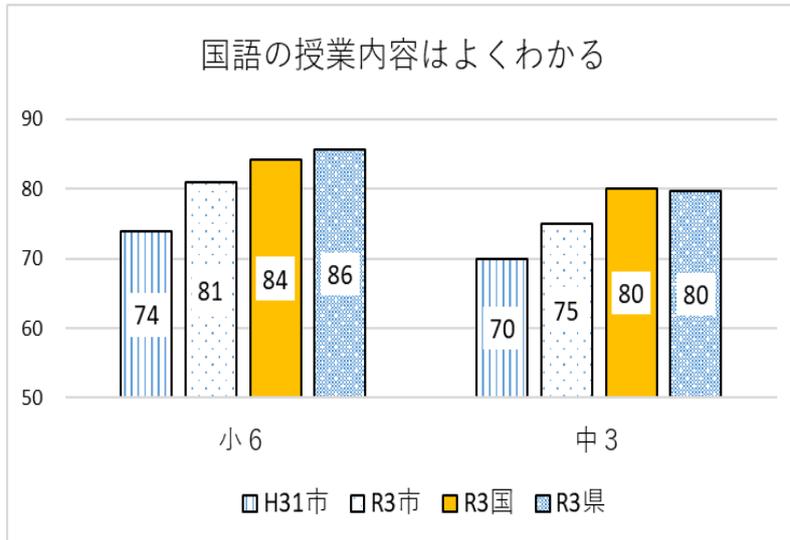
(4) 国語が好き



・小6については、全国平均よりも13ポイント低く、県平均よりも14ポイント低かった。H31年度よりも7ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも2ポイント低く、県平均よりも3ポイント低かった。H31年度よりも2ポイント高かった。

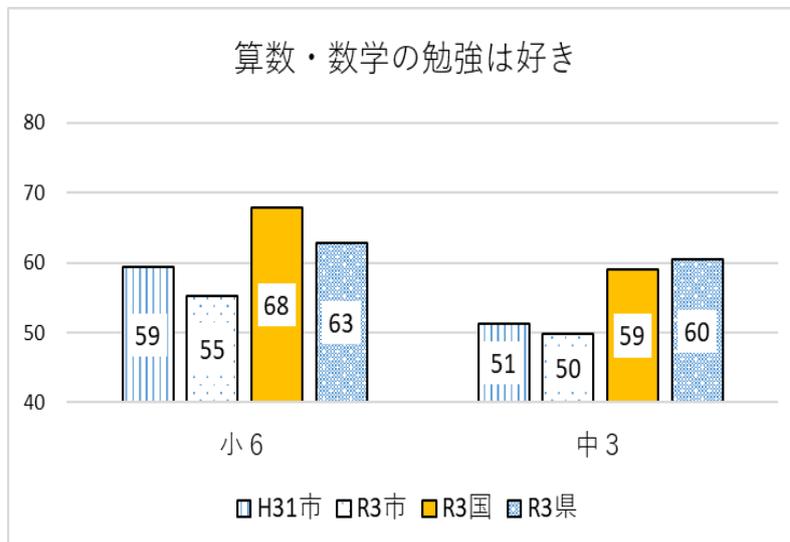
(5) 国語の授業はよくわかる



・小6については、全国平均よりも3ポイント低く、県平均よりも5ポイント低かった。H31年度よりも7ポイント高かった。

・中3については、全国平均及び県平均よりも5ポイント低かった。H31年度よりも5ポイント高かった。

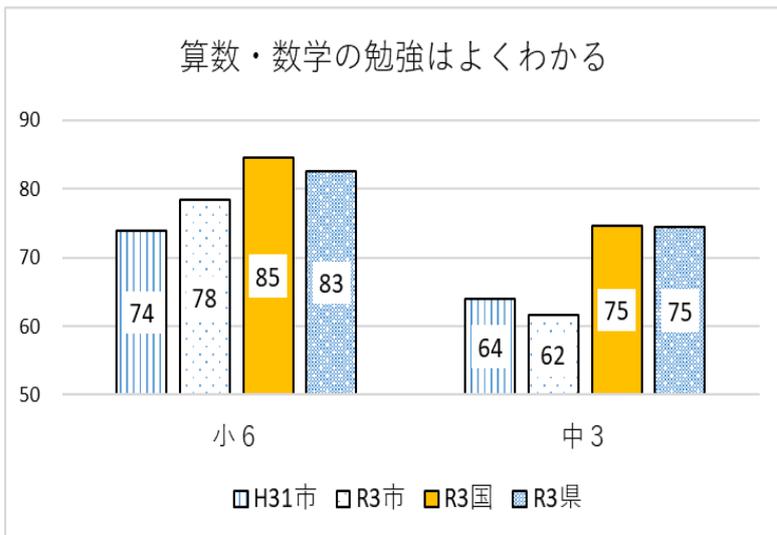
(6) 算数・数学が好き



・小6については、全国平均よりも13ポイント低く、県平均よりも8ポイント低かった。H31年度よりも4ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも9ポイント低く、県平均よりも10ポイント低かった。H31年度よりも1ポイント低かった。

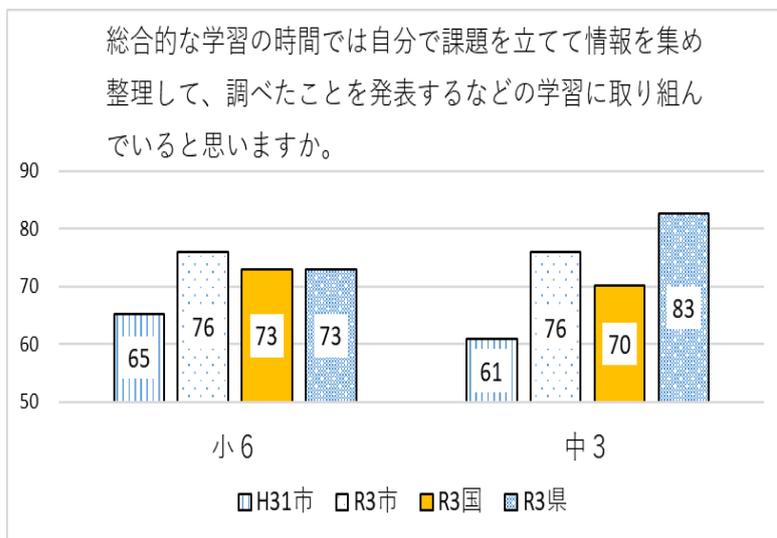
(7) 算数・数学の授業はよくわかる。



・小6については、全国平均よりも7ポイント低く、県平均よりも5ポイント低かった。H31年度よりも4ポイント高かった。

・中3については、全国平均及び県平均よりも13ポイント低かった。H31年度よりも2ポイント低かった。

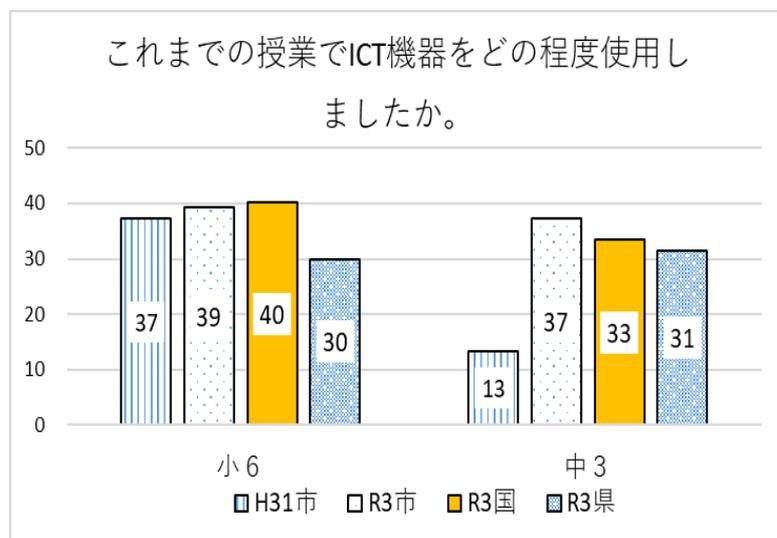
(8) 総合的な学習の時間の充実



・小6については、全国平均及び県平均よりも3ポイント高かった。H31年度よりも11ポイント高かった。

・中3については、全国平均よりも6ポイント高く、県平均よりも7ポイント低かった。H31年度よりも15ポイント高かった。

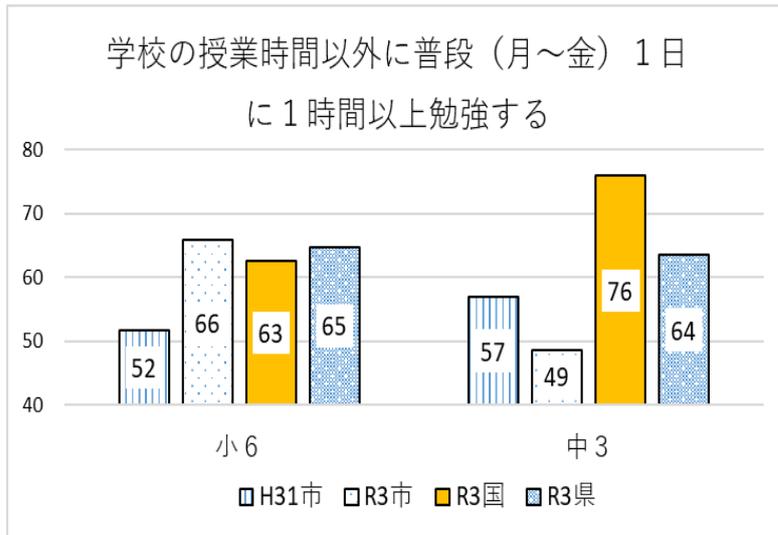
(9) ICT活用の充実



・小6については、全国平均よりも1ポイント低く、県平均よりも9ポイント高かった。H31年度よりも2ポイント高かった。

・中3については、全国平均よりも4ポイント高く、県平均よりも6ポイント高かった。H31年度よりも24ポイント高かった。

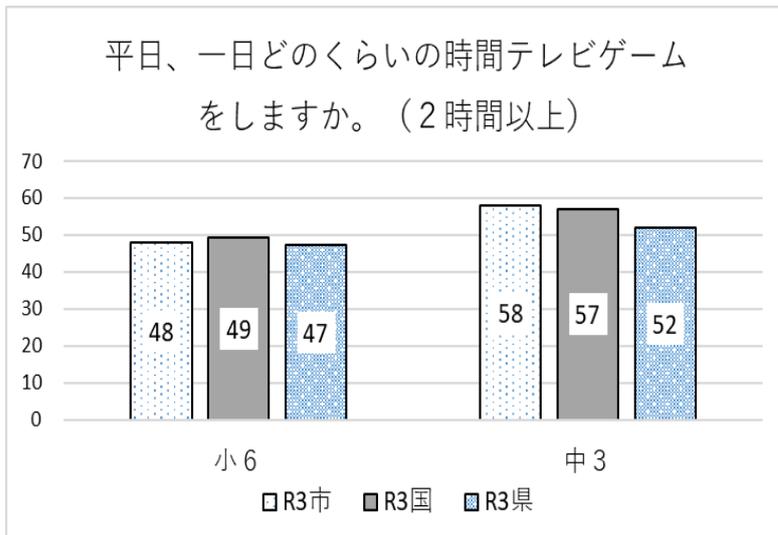
(10) 平日の家庭学習時間



・小6については、全国平均よりも3ポイント高く、県平均よりも1ポイント高かった。H31年度よりも14ポイント高かった。

・中3については、全国平均よりも27ポイント低く、県平均よりも15ポイント低かった。H31年度よりも8ポイント低かった。

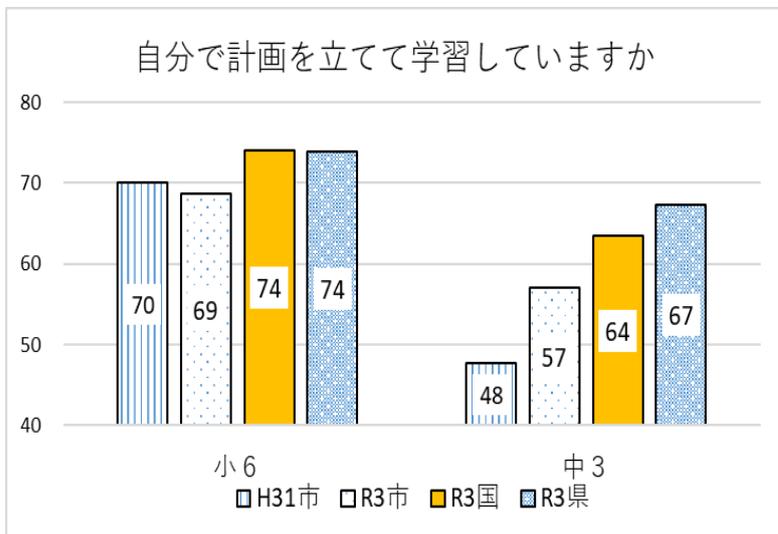
(11) 平日どのくらいの時間テレビゲーム（パソコン、スマホ、携帯等）をしていますか。【質問変更】



・小6については、全国平均よりも1ポイント低く、県平均よりも1ポイント高かった。

・中3については、全国平均よりも1ポイント高く、県平均よりも6ポイント高かった。

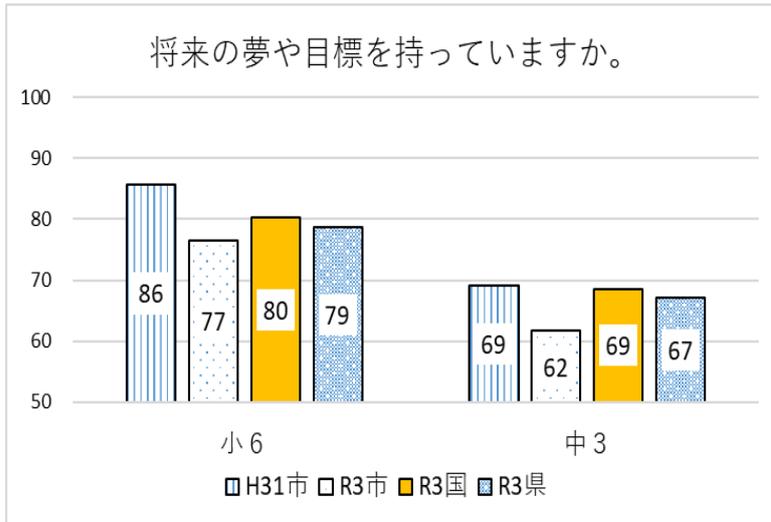
(12) 計画的な学習



・小6については、全国平均及び県平均よりも5ポイント低かった。H31年度よりも1ポイント低かった。

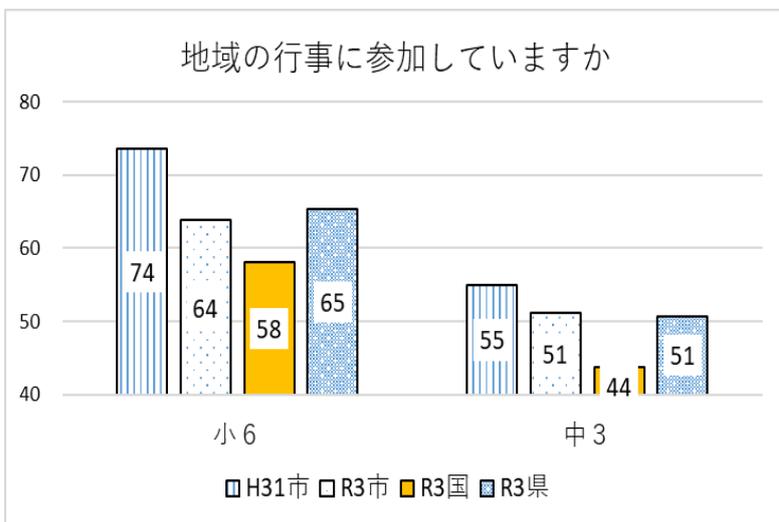
・中3については、全国平均よりも7ポイント低く、県平均よりも10ポイント低かった。H31年度よりも9ポイント高かった。

(13) ふるさと教育・ライフキャリア教育



・小6については、全国平均よりも3ポイント低く、県平均よりも2ポイント低かった。H3 1年度よりも9ポイント低かった。

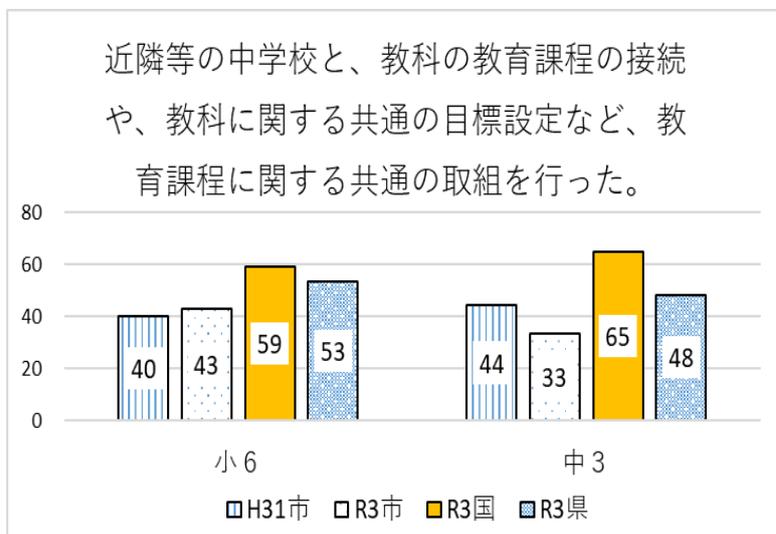
・中3については、全国平均よりも7ポイント低く、県平均よりも5ポイント低かった。H3 1年度よりも7ポイント低かった。



・小6については、全国平均よりも6ポイント高く、県平均よりも1ポイントと低かった。H3 1年度よりも10ポイント低かった。

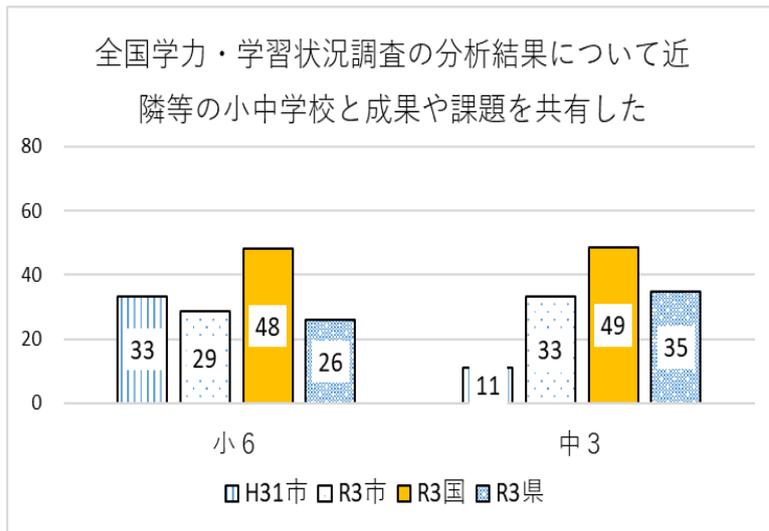
・中3については、全国平均よりも7ポイント高く、県平均と同じであった。H3 1年度よりも4ポイント低かった。

(14) 小中での情報共有



・小6については、全国平均よりも16ポイント低く、県平均よりも10ポイント低かった。H3 1年度よりも3ポイント高かった。

・中3については、全国平均よりも32ポイント低く、県平均よりも15ポイント低かった。H3 1年度よりも11ポイント低かった。



・小6については、全国平均よりも19ポイント低く、県平均よりも3ポイント高かった。H31年度よりも4ポイント低かった。

・中3については、全国平均よりも16ポイント低く、県平均よりも2ポイント低かった。H31年度よりも22ポイント高かった。

## VI 今後の対応

### 1 各学校の実践に対する指導

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査及び令和3年度益田市定着度調査及びの結果に基づく各校のPDCAサイクルによる「学力育成への取組」の検証と対応策について、計画訪問を実施

### 2 益田市未来の担い手育成コンソーシアムにおける協議

- ・市内の小中高校から選出された教職員、教育委員会事務局等により構成された「学び部会」において、「確かな学力」育成のための方策について協議し、提言をまとめる。

### 3 学習習慣の定着の推進

- ・授業と家庭学習をつなぐ家庭学習実践の支援(課題提示の工夫、一人一台端末を活用した家庭学習の推進 等)
- ・PTA組織と連携したメディアコントロールに関する啓発活動の推進
- ・「学び舎ますだ」、「算数・数学パワーアップ教室」等、主体的に学びに向かう場の充実